

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2 (2)	地域住民と利用者が交流する取り組み、例えば利用者が散歩する時に地域の人を誘う、運動公園で地域の人と利用者がランドゴルフを楽しむ、公民館で行われるサークル活動に利用者が参加する、グループホームが主催して公民館でカフェを開き、地域の人に参加してもらう等の取り組みが望まれる。	地域住民との係りの場面を作り、公民館での趣味の会や老人会のサークルに参加したり等、利用者の地域生活を支援する。	散歩に出た際には、多くの人とお喋りをし仲良くなれるようにする。 運営推進会議の委員さんから地域の行事予定や老人会の活動内容の情報収集を行う。	6ヶ月
2	10 (6)	家族は職員と共に利用者を支える車の両輪の一つである。キーパーソン以外の家族もあり、面会が困難な人もある。広報誌を毎月発行して郵送することが望まれる。 広報誌には写真と文による行事報告と来月の行事のお誘い、職員移動と職員紹介(写真とアピール文)、写真による献立紹介等を掲載すること、行事に参加してもらえるように家族にお願いすること、以上が望まれる。	広報誌を積極的に発行し、写真、文でグループホームの活動や行事を御家族に伝える。 御家族同士が交流できる機会を作る。	行事・イベント委員会と協力して広報委員会を開き広報誌の内容を検討し発行出来るようにする。 行事に家族への参加を呼びかけ、交流の機会をつくる。	6ヶ月
3	20 (8)	利用者は長い人生のあと、今グループホームで最期の時を暮らしている。昔仲良くしていた友人、近所付き合いをしていた人、昔かわいがっていた甥や姪、しばらく会っていないので会いたいと思っている。生まれた家、先祖のお墓、仕事をしていた場所、毎年見ていた桜の名所、いつも楽しんでいた祭り、もう一度行きたい。このように会いたい人、行きたい場所への支援をすることが望まれる。	グループホームに入居する前に住んでいた場所や、思い出等の情報を収集し、グループホームで支援出来る事は、職員全員で情報を共有し支援に繋げる様にする。	情報をもとに、思いでの場所への外出支援を実施する。	6ヶ月

3	23 (9)	長い人生を送ってきた利用者のグループホームでの暮らしを支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。生まれた所、父母や兄弟姉妹等生家のこと、子ども時代、現役の時の仕事、仕事仲間、趣味やその友人、夫や妻の仕事、子供のこと等結婚生活等、利用者の生活歴の情報を収集することが望まれる。	長い人生を過ごしてきた利用者の生活をグループホームで支援するためには利用者を深く理解することが欠かせない。出身地、父母や兄弟姉妹生家のこと、子ども時代、現役の時の仕事、仕事仲間や友人、趣味等、夫や妻の仕事、子どものこと等結婚生活等々、利用者の生活歴の情報を収集する。	GH意見交換会などで他の事業所の取り組みや情報入手の工夫などご本人とのかかわり方など研究する。	6ヶ月
4	26 (10)	介護計画には一人ひとりの利用者にとってやりがいのある役割や楽しみの項目を利用者の「思い」を反映して入れること、認知症の不安や混乱に対応する項目を入れること、介護記録は生活のデータや利用者の様子の他に介護計画を実施した時の利用者の発言や表情、拒否があった時はその要因を書き、モニタリングの根拠となるようにすること、以上の3点が望まれる。	サービス項目が支援できているか、利用者さんの混乱が生じた時の対応など職員間で情報の共有し、ケア会議を通じて確認し合い、サービス項目の見直しをしていく。	利用者さんにとってより良いサービスの実施が出来る様に、モニタリングを基に職員間で記録の充実、ケア会議で見直しをする。	6ヶ月
5					

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。